IYO BANK

IYOBANK GLOBAL REPORT

2020

Vol.11

伊予銀行

ベトナム人は、日本のことをどう思っているか？

フォーバル・ベトナム派遣（現：伊予銀行国際部）
宮城慎吾

はじめに

私は2018年4月にベトナムのコンサルティング会社へ出向し、最初の1年間はハノイに、残りの1年間はホーチミンに駐在しました。駐在期間中、出向先のベトナム人同僚やローカル企業との交渉などを通じて多くのベトナム人と接してきましたが、私が当初抱いていたベトナム人のイメージとのギャップに驚かされることが度々ありました。

本レポートでは、駐在経験を通じて感じ取った「**ベトナム人の日本に対する考え方**」についてお知らせします。

1.日本に対する考え方の変化

親日であるベトナム人

日本には多くのベトナム人が日本の技術や日本語習得のために技能実習生や留学生として生活しています。一方、ベトナムにも二輪メーカーや食品メーカー等、数多くの日系企業が進出し、ベトナム人の生活に溶け込んでいます。

実際にほとんどのベトナム人は親日です。日本人は優しく礼儀正しい、日本製品は高い品質や高度な技術で製造されており、それらを学びたいと考えているベトナム人は多くいます。実際に私も現地でのコンサルティング業務の一環として、日本のお客さまからローカル企業へのアポイント依頼を度々受託してきましたが、ほとんどのローカル企業は日系企業からの面談希望の旨を伝えると、是非とも話を聞いてみたいと容易にアポイントを取得することができました。

▲ベトナム人技能実習生の勉強風景

親韓のベトナム人の増加

親日であるベトナム人ですが、近年急激に増加しているのが親韓の若者です。

自国の市場が小さい韓国企業は早くから海外向けのマーケティングを強化していますが、ベトナムにおいてもSNS等の広告や安価な価格設定等、巧妙なマーケティング戦略を徹底しており、韓流アーティストやプチプラコスメはベトナムの若者の間でブームとなっています。また、サムスンやＬＧといった韓国の大手総合電機メーカーがベトナム国内で主力工場を有するなど、ベトナムにおける韓国企業の直接投資額は国別でトップを占めており、ベトナム人の韓国製品に対する親近感は年々強まってきています。

私の出向先の女性スタッフも韓国コスメを愛用していました。彼女たちは背伸びをすれば日本製の化粧品も購入できるほどの収入は得ているため、日本製の化粧品は使わないのかと聞いてみると、「品質が高く肌にいい成分で作られていることは知っているが、年上が使うイメージで少しオバサン臭くダサい感じがする」との予想外の回答が返ってきました。保守的といわれるベトナム人ですが、日本製商品が持つ高品質や安全というイメージよりも、韓国製商品の鮮やかさが若いベトナム人の心をとらえているのでしょう。その他、日本の食品の販路拡大のために訪問したローカルサプライヤーからは「日本製がおいしく安全性も高いことは知っている。ただ韓国製も日本製には劣るもののおいしく安全性も高いというイメージが定着し、ベトナム人にとって両者の差はほとんどない。そのため価格が安く広告を頻繁に出す韓国製の方が売れる」といわれることが度々ありました。

せっかく高品質のイメージが定着してきた日本製の商品ですが、今では価格を含め現地でのマーケティングをうまく行っている韓国製の商品の方が、存在感を示しているようです。

ベトナムの国力向上による日本離れ

ある懇親会で3年間実習生として日本に滞在経験があるベトナム人男性と話をする機会がありました。この方からは「私は日本に3年間実習に行き、時間を無駄にしました」と言われました。私がその理由を尋ねると「日本の労働環境は良く貯蓄はできたものの、単純労働だけであり、技術力は身につかない。また日本語を勉強しても低成長の日本ではチャンスが少なく、ベトナムの方がチャンスに溢れている」とのことでした。

実際に彼は帰国後、日本で学んだ実習内容と一切関係のないWEBビジネスで成功を収めました。このような方は一部かもしれませんが、日本で働くことに対して魅力を感じない優秀なベトナム人が増加してきているように思われます。ハノイやホーチミン等の都市部ではITやコンサルティングなどの高度な産業も発展してきており、そこで働くベトナム人は月1,000ドル以上の賃金を得る人も増えてきており、物価水準から考えれば日本で働きお金を貯めずとも裕福な暮らしが可能で、かつ将来性も見込まれます。ベトナムの経済発展により国力が上がり相対的に日本に魅力を感じないベトナム人も最近増えており、今後は優秀なベトナム人実習生の確保は難しくなっていくものと思われます。

2.日本に魅力を感じてもらうためには

ベトナムになく日本にあるもの

ハノイやホーチミンといった都市部であれば既に多くの日本製品で溢れており、必要なものはほとんど手に入ります。そのためこれから進出する日系企業がベトナム人に対して自社製品に興味をもってもらうためには、ベトナム人が欲するベトナムにない商品やサービスは何かということを念頭におく必要があります。

日本にありベトナムにないものの一つにホスピタリティが挙げられます。近年ベトナムに開業した日系のガソリンスタンドでは、お辞儀をしての迎え入れ、窓ふきや正確な計量といった日本ではごく当たり前のサービスをベトナムで初めて行ったところ、ベトナムのニュースで大きく取り上げられ、現在も多くの来店客でにぎわっています。そのような日本が得意とするホスピタリティを持ったサービス業はベトナムにまだ少なく、今後もニーズが高いものと思われます。

キャリアアップを考えた雇用

日本の労働人口は年々減少し続けており、今後も外国人労働者の需要はますます増加していくことが予想されます。一方でベトナムにおける物価や賃金が増加していく中では単純労働力の補完としての雇用はベトナム人に魅力を感じてもらえなくなっています。

ベトナム人に魅力に感じてもらうためにも仕事を通じてキャリアアップが可能なような雇用を行うことが大切です。ベトナムに現地法人を設立し、優秀な人には帰国後はそちらでの雇用も視野に入れる、日本語や日本人ならではの仕事の取り組み方などを学べるような仕事内容とするといった工夫もその一つです。さらに最近では、日本での実習期間を終えたベトナム人技能実習生を現地法人の代表者に据える企業も出てきました。日本側としてもコストが高い日本人を現地駐在させるよりも、現地に詳しくコストも安いベトナム人を現地代表に据えることは非常にメリットがあると思います。

終わりに

今回の新型コロナウイルスの蔓延により中国のサプライチェーンが滞った影響で、BCPの観点から「チャイナプラスワン」が再度盛り上がりを見せています。中国に加えてベトナムでの製造拠点新設や新たな調達候補先を模索するといった動きも増えてきており、この動きは当面続くものと思われます。このような状況下において、今後も経済発展が続き豊富な労働力を持つベトナムでのビジネスを検討する企業は多いと思いますが、かつてのように「日本」というブランドだけでは参入（＝現地企業との取引）が難しくなってきています。今後、私たちがベトナム企業と良好な関係を維持し続けるためには、彼らとWIN-WINの関係を構築していくことを念頭に置き、彼らが欲する価値を提供し、彼らにとって魅力のある国であり続ける必要があると思います。

最後になりますが、コロナ渦の影響で、ベトナムには私たち日本人を含む外国人の入国ができない状況が続き、思うような情報収集ができず多くの企業が不安を抱えていることと思いますが、この2年間の駐在生活で培った情報ネットワークをフル活用し、今後も皆さまのお役に立つような最新情報を発信し続けることをお約束し、結びとさせていただきます。

コラム　～ベトナム政府の新型コロナウイルス対応～

日本では感染者が1.5万人を超え猛威を振るう新型コロナウイルスですが、ベトナムの状況はというと感染者は320名、死者0名（5月18日時点。”COVID-19 dashboard by the Center for Systems Science and Engineering(CSSE) at Johns Hopkins University”のウェブサイトより）と、感染者が数千人を超える近隣ASEAN諸国に比べても非常に少なく、現状では封じ込めに成功しているといえます。

新興国なので検査をきちんとしていないのではないかとの感想を持つ方もいるかもしれませんが、実態は全く逆で非常に厳しい対策と検査を行っています。ベトナムで感染者が発生した場合、感染者の濃厚接触者の更に濃厚接触者までが隔離対象となるため、１名感染者が判明すると100名単位で隔離及び検査が実施されることもあります。また、マンションで１名感染者が出ると、マンション全体が隔離、検査対象となるといった徹底ぶりです。加えて、レストランなどの店舗の営業規制、バス・タクシーなどの公共交通機関の停止、不要不急の外出や公共の場でマスクを着用しない場合には罰金が課される等、厳しい感染防止対策が実施されていました。日本人から見ると感染者が少ない割に厳しすぎるのではといった印象があるかもしれませんが、現状それが功を奏し世界的にもかなり早くにウイルスの封じ込めに成功しています。

このような厳しい感染防止対策よりも印象的だったのは、ベトナム人が政府の方針や対策に対し非常に従順であったことです。日本では有事の際は政府の方針や対策に対し不平不満をいう方や従わない方なども多くいますが、少なくとも私の周りのベトナム人で今回の政府の感染防止対策に対してそういった方はいませんでした。中には発表された当日から即適用となるような対策（日本人からは信じられない急な対策ですが、飲食店の営業規制が昼に発表され、その日の夕方から適用されました）もありましたが、ベトナム人に聞くと「政府が決めたことだから仕方ない」との反応でした。普段の生活では、社会主義であることを感じないベトナムでの生活でしたが、この時ばかりは社会主義の国であることを強く認識させられました。一党独裁の社会主義体制には当然悪い面もありますが、こういった有事の際には社会主義国家のような強力なトップダウンと国民の一致団結が問題解決に必須なのかもしれません。

余談ですが、ベトナム語で隔離は「カックリー（cach ly）」と言い日本語に非常に近い発音をします。皆様、カックリーされないためにも一致団結してコロナウイルスに打ち勝ちましょう。